



原水爆禁止 2019年世界大会

被爆75年の2020年にむけ

核兵器のない 平和で公正な世界へ



日本共産党の緒方靖夫副委員長と大平喜信前衆院議員は、広島市内の養護ホームなどを訪問し、被爆者を見舞いました。写真は、広島赤十字・原爆病院の松田裕之副院長（左から3人目）に見舞金を手渡す緒方氏（その右）。左端から同病院の国清真一事務部長、日本共産党の近松里子市議、2人おいて大平氏、吉瀬康平市議、高見篤己県常任委員、辻恒雄県議=8月5日、広島市中区

広島と長崎への原爆投下から74年。「命あるうちに核兵器のない世界を」は高齢化がすすむ被爆者のみなさんの切実な願いです。いま、核兵器禁止条約の署名・批准は世界でひろがり、核にしがみつく勢力を追いつめています。

被爆75年の節目となる2020年にむけて、核兵器廃絶をめざす流れをいっそう加速させるため、日本共産党は力をつくします。

被爆者とともに
立ち上がろう

広島市の平和記念公園を訪れ、原爆碑に献花する志位和夫委員長をはじめとした日本共産党代表団=8月6日



日本共産党
代表団が献花

被爆75年の2020年を「核兵器のない平和で公正な世界への歴史的転機とするために被爆者とともに立ち上がろう」と訴える宣言を採択した、原水爆禁止2019年世界大会・国際会議の参加者=8月5日、広島市中区

核兵器禁止条約
日本も参加を



核兵器廃絶を訴えながら日本全国を歩く2019年
原水爆禁止国民平和大行進。写真は甲府市役所を元
気に出発する山梨県行進団=7月15日、甲府市